

## インターバンクの声（2015年6月24日）

進展が期待されていたギリシャ債務交渉では、同国政府と債権団との合意案がギリシャ議会で否決されるのではとの懸念も浮上、ユーロが徐々に下落する展開となった。ドル円もニューヨーク市場の朝方に124円手前でドルの上値が重くなり始めていたところに米耐久財受注の予想以上に悪化した発表が重なり、ロンドン市場からのドル買いも止まると思われた。しかし、この局面を変えたのがパウエルFRB理事の発言。イエレン議長やフィッシャー副議長の陰で、普段はあまり目立たないが、父ブッシュ政権時代の元財務次官の「9月利上げの確率は五分五分といったところ」発言に市場が反応した。耐久財受注の結果に売られ始めたドルは124円台前半まで反発、結局その後は123円台に下げる調整を見るが、ニューヨーク市場を124円近くで終える要因になったようだ。相変わらず米経済指標の一部には内容の良くない発表もあり9月の利上げは難しいのではとも思わせるが、タカ派ハト派でもない中立的なパウエル理事の発言は気になるところだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。